

『月世界旅行』は、1902年に公開された「世界初のSF映画」で、フランスの映画監督ジョルジュ・メリエスによって制作され、この映画は、ジュール・ヴェルヌの小説『月世界旅行』とH.G.ウェルズの『月世界最初の人間』に着想を得ており、幻想的な映像表現が特徴である。

【あらすじ】

物語は、天文学者たちが月への探検旅行を計画するところから始まる。彼らは砲弾型の宇宙船を作り、それを巨大な大砲で発射して月へ向かいます。宇宙船は人の顔をした月の右目に着弾し、学者たちは月面に降り立つ。

月面を探索すると、彼らは月の住人と遭遇する。やがて捕らえられ、月の王の前に連れて行かれる。しかし、学者たちは王を倒し、再び宇宙船に乗り込んで地球へ帰還する。

地球では彼らの偉業を称えるパレードが開かれ、月から連れてきた住人が見世物にされる場面で物語は幕を閉じる。



【映画の特徴】

『月世界旅行』は、「革新的な特殊効果」や「演劇的な映像スタイル」が特徴で、映画史において非常に重要な作品とされる。特に、月の顔に宇宙船が突き刺さるシーンは、映画史上最も象徴的なショットの一つとして知られる。『月世界旅行』は、後のSF映画に大きな影響を与え、映画の可能性を広げた歴史的な作品である。

1. 特殊効果の先駆け

ジョルジュ・メリエスは、映画における「特殊効果」の可能性を広げた。例えば、「ストップトリック」や「重ね合わせ」などの技術を駆使し、幻想的な映像を作り出した。これらの技術は、後のSF映画において宇宙空間や異星人の描写に活用された。

2. 物語映画の確立

当時の映画は短い映像の連続でしたが、『月世界旅行』は明確なストーリー構成を持つ映画として、物語映画の基礎を築いた。この形式は、後のSF映画においても重要な要素となり、例えば『スター・ウォーズ』や『2001年宇宙の旅』などの作品に影響を与えた。

特に、視覚的なストーリーテリングの重要性を示し、映画が単なる記録映像から芸術へと進化するきっかけとなりました。

